

科目名	授業の目的・到達目標
公衆衛生看護学概論	<p>&lt;授業の目的&gt; 公衆衛生看護活動の歴史及び公衆衛生看護の基盤となる考え方を学び、地域の健康課題を明確にし、他者と協働しながら組織的に問題を解決するための企画力や調整力を身につけるために、地域住民の健康的な生活を支える公衆衛生看護活動の役割や課題について理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護学の基盤となる予防の考え方を習得できる</li> <li>2. 公衆衛生看護の対象と場について説明できる</li> <li>3. 我が国の健康課題を社会的背景と結びつけて地域の健康課題を説明することができる</li> <li>4. 公衆衛生看護活動と法的根拠を結びつけて考えることができる</li> <li>5. 人々の生活や健康と地域との関わりを総合的に理解して保健師活動を考えることができる</li> </ol>
個人・家族・集団・組織の支援	<p>&lt;授業の目的&gt; 家庭訪問を通して、生活の場面で個人やその家族の価値観や生活歴を尊重し、その人らしい人生を送ることができるよう健康の側面から支援する方法を学び、公衆衛生看護の視点に立った支援展開ができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健指導の法的根拠と基本姿勢が説明できる</li> <li>2. 対象者の生活歴や発達課題、家族や社会との関係を理解し、家族全体を援助の対象として位置づけた支援展開を考えることができる</li> <li>3. 家庭訪問による援助の展開を具体的事例のなかで理解し、個別性を尊重した支援方法を検討することができる</li> <li>4. 家庭訪問の一連の過程をPDCAサイクルに沿って実施することができる</li> <li>5. 家庭訪問を通じて地域ケアの課題を見出し、問題提起をする必要性が説明できる</li> <li>6. グループワークにおいて状況に応じたリーダーシップやメンバーとしての役割が発揮できる</li> </ol>
地域組織活動論	<p>&lt;授業の目的&gt; 地域における健康課題の解決に関わる組織活動を支援するために、組織とは何かを理解し、地域における住民組織の活動目的や組織構造と支援についての基盤となる知識と態度を修得できる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の健康課題への対処に地域組織が果たす役割を説明できる。</li> <li>2. 地域組織の変遷を理解し、社会背景と関連づけて地域組織活動の特徴を説明できる。</li> <li>3. 地域組織活動の基本的な展開を理解し、保健師の役割を説明できる。</li> <li>4. 集団、組織における社会的認知・行動について説明できる。</li> <li>5. セルフヘルプグループの歴史や実際の活動を理解し、保健師の支援の方法を説明できる。</li> </ol>
保健計画論	<p>&lt;授業の目的&gt; 地域の健康課題を明確にするために、公衆衛生看護学の知識・技術を用いて、地域をアセスメントする方法を習得できる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の概念を説明できる。</li> <li>2. 地域の概要を把握するための項目（人口、位置、地理的環境、歴史、主要産業など）について説明できる。</li> <li>3. 地域の人口集団を把握するための項目（人口動態、人口静態、世帯構造、産業別人口、住民の価値意識、風習、サブシステムなど）について説明できる。</li> <li>4. 地域アセスメントのデータ源（一次資料、二次資料、活動記録など）を適切に活用できる。</li> <li>5. 地域アセスメントのためのデータ収集方法（実態調査、地区視診、エスノグラフィ）を説明できる。</li> <li>6. 収集した情報をアセスメントし、地域特性や健康課題を自分の言葉で説明できる。</li> <li>7. 健康課題の優先度の判断について、緊急性、波及効果と影響、重要性、公平性・格差是正、解決可能性、実施可能性など多角的視点から説明できる。</li> <li>8. 地域の健康課題について、論理的に自分の意見をまとめ、根拠強く説明できる。</li> <li>9. 人の意見を積極的に聞き、建設的な討議ができる。</li> </ol>

<p>健康教育論</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  対象の主体性や価値観を尊重して行動変容に導くために、健康教育は個人または集団を対象としてそれぞれの認識に働きかけ、主体的な行動の変容を支えることを通じて地域全体の健康の保持増進を目指すことを理解する。そして、地域の健康課題に応じた効果的な健康教育を計画、実施、評価ができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護における健康教育の位置づけとパラダイムの変化が説明できる</li> <li>2. 健康教育の定義について理解し、ヘルスプロモーションの視点で説明ができる</li> <li>3. 健康教育の目的・目標・対象者および場の選定、教育媒体の選択が、対象や地域特性に応じた形で適切に実施できる</li> <li>4. 健康教育の展開過程（企画・準備・実施・評価・事後対応）において基本技術を活用できる</li> <li>5. 健康教育の実践において対象の反応や理解力に応じて柔軟に対応する必要性を説明できる</li> </ol>
<p>公衆衛生保健指導論・母子保健</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  近年の母子保健上の健康課題や社会的問題について概観することによって、母子保健の現状と課題を保健、医療、福祉、生活、社会環境等の多方面の視点から分析し、次世代を担う子どもたちの健やかな成長発達を地域全体で支援する方法を習得することができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の母子保健ニーズに基づき思春期から乳幼児期を通じて一貫した母子保健サービスが体系的に提供されていることを説明できる</li> <li>2. 母子及び家族の成長発達過程に応じて予防の視点に立った支援方法を考えることができる</li> <li>3. 健康上のリスクをもつ母子への継続的な支援について学習し、支援方法を検討できる</li> <li>4. 地域の実情や健康課題に応じた子育て支援のあり方を地域活動とつなげて考えることができる</li> <li>5. 社会情勢を踏まえて、家庭や地域における子育て機能の強化や虐待予防の必要性が説明できる</li> </ol>
<p>公衆衛生保健指導論・成人保健</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  成人期の人々の生活を多面的に捉え、成人を対象とした保健活動において保健師に求められる役割を理解し、適切な支援を考えることができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の人々の健康増進に関する主な法規と、各種保健医療福祉分野の施策、事業の意義と仕組みを説明できる。</li> <li>2. 成人期にある人の生活の現状と課題を把握できる。</li> <li>3. 成人期にある人に対する適切な保健指導の展開について、説明することができる。</li> </ol>
<p>公衆衛生保健指導論・高齢者保健</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  高齢期の人々の健康課題の特性を理解し、健康の維持増進への支援を行う保健師の活動と役割を理解し、適切な支援を考えることができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期の人々の健康に関する指標と主な法制度について説明ができる</li> <li>2. 高齢者の生活の質の向上を目的としたケアマネジメントの過程を理解し、支援方法を考えることができる</li> <li>3. 高齢者とその家族の地域生活を支える社会資源について理解し、活用方法を考えることができる</li> <li>4. 高齢者が希望する地域生活を支援するための社会資源の開発の意義と保健師の役割を説明できる</li> <li>5. 地域における高齢者の権利擁護の重要性について説明できる</li> </ol>
<p>公衆衛生保健指導論・精神保健</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  地域で生活する人々の精神的な健康課題について考えることができ、その人らしい生活を送ることができるように支援体制を関係機関との連携を基に確立する必要性を学び、精神保健（予防）の視点に立った支援方法を習得することができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における精神保健活動の動向・制度について説明できる</li> <li>2. 精神保健分野における施設ケアから地域ケアへの転換の流れについて説明ができる</li> <li>3. 精神障害者の地域生活を支えるために必要な保健師活動を検討できる</li> <li>4. 社会病理を背景とする精神的な健康課題への支援方法が説明できる</li> <li>5. 地域で生活する人々の人権や権利擁護という視点に立って考えることができる</li> </ol>

<p>公衆衛生保健指導論・障害者(児)保健</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  障害をもつ人々の健康課題の特性を理解し、生活障害の特性や課題に応じた保健師の支援方法を習得できる。                  &lt;到達目標&gt;                  1. 障害者(児)保健の理念・歴史の変遷を理解し、自分の言葉で説明できる                  2. 障害者(児)保健施策について理解し、自分の言葉で説明できる                  3. 障害者(児)保健における保健師活動について、アセスメントに基づく支援が考えられる                  4. 障害者(児)保健における他職種との連携について、自分の言葉で説明できる</p>
<p>公衆衛生保健指導論・産業保健</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  産業保健活動の目的は、労働条件と労働環境に関連する健康障害の予防、労働者の健康の保持増進、福祉の向上に寄与することであり、その活動対象は、個々の労働者だけでなく、労働者が所属する組織・地域を含むことを学ぶ。産業保健活動とは、事業者・労働者の双方に対して看護の理念に基づいて組織的に行う、個人・集団・組織への健康支援活動であることが理解できる。                  &lt;到達目標&gt;                  1. 産業保健活動の目的と産業看護職の役割を説明できる                  2. 産業保健の定義について説明できる                  3. 労働安全衛生法について理解できる                  4. 労働者の安全と健康について考えることができる                  5. 産業保健における健康課題について説明することができる                  6. 産業保健活動と地域における公衆衛生看護活動との連携の重要性を認識することができる</p>
<p>公衆衛生保健指導論・学校保健</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  学校保健行政が文部科学省の設置、教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、学校給食法等を基盤とし、地域保健法などの関係法規によって支えられていることがわかり、その包括的活動の展開を理解することによって、公衆衛生看護の立場から学校保健のあり方について考えることができるようになる。                  &lt;到達目標&gt;                  1. 学校保健、学校安全、学校給食それぞれの独自の機能を説明できる                  2. ヘルスプロモーションの視点から公衆衛生看護における学校保健の役割について説明できる                  3. 児童、生徒、職員を取り巻く社会の動向、制度、地域ケアシステムを理解することができる                  4. 養護教諭の役割と地域の関係機関との協働について理解し、連携の意義と方法を説明できる</p>
<p>公衆衛生看護実践論</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  保健師活動の特徴である個人支援から集団・地域への支援へと思考を発展させ、対象者への支援を考えることが出来るような基盤を形成する。そのために市町村勤務の新任期の保健師が経験しやすい事例を用いてグループでディスカッションを重ねることにより、個人から地域全体へつなげる思考過程のイメージを図り、視野の広がりを体験することで理解を深める。                  &lt;到達目標&gt;                  1. 地域で行われている健康課題に対する活動や法的根拠について説明できる                  2. 個人および家族の発達段階や健康課題に応じた支援を考えることができる                  3. 予防的視点から将来的なリスクを推測し支援を考える必要性を説明できる                  4. 個人・集団・組織・地域の健康問題に対する保健師の役割について説明できる</p>
<p>公衆衛生看護管理論</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;                  公衆衛生看護管理の目的・機能を理解し、他機関および住民と協働で住民の健康レベルの向上、地域ケアの質を保証する方法について学ぶ。また、行政組織における情報や組織運営、各種事業および関連予算等、さまざまな公衆衛生看護管理の在り方について学び、行政に所属する保健師の責任と義務について理解する。                  &lt;到達目標&gt;                  1. 公衆衛生看護管理の目的・機能を理解する                  2. 地方公共団体の組織とその運営について学ぶ                  3. 他機関および住民との協働や連携の必要性とその方法論を理解する                  4. 住民の健康レベルの向上、地域ケアの質を保証するための予算管理や施策化を理解する                  5. 住民の権利保障とリスクマネジメント、健康危機管理について学ぶ                  6. 情報を扱う保健師の責任と義務について学ぶ</p>

<p>疫学</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 疫学は公衆衛生の基礎となり、得られた知見を現在（あるいは将来）の人々の健康に寄与するために行う学問であることを理解する。明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てるために学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学は罹患者に共通の曝露を探し、疫学データの解釈を理解する</li> <li>2. 疫学的研究方法を習得する</li> <li>3. 予防の3段階（1次的予防、2次的予防、3次的予防）が理解でき、保健活動における具体例を理解する</li> <li>4. スクリーニング検査を理解する</li> <li>5. 感染症の基礎概念について学ぶ</li> <li>6. 結核をはじめとする主要な感染症について疫学的特徴を学ぶ</li> <li>7. アウトブレイク（エンデミック・パンデミック）について理解でき、発生時の調査の方法を学ぶ</li> <li>8. おもな疾患の疫学を理解する</li> </ol>
<p>保健統計学Ⅱ</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 地域の健康課題を明確にし、課題解決をするための企画力や調整力を獲得するために、集団の健康に関わる情報を収集し、それを評価する統計学的手法を理解する。また、看護専門職者として必要な集団の健康や環境に係わる統計指標を読み取る能力を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの種類（質的・量的）、平均値と中央値、最頻値について説明できる</li> <li>2. 記述統計と推測統計の違いをふまえて、仮説検定の一連の流れを説明できる</li> <li>3. ヒストグラムとクロス集計表を作成し、データの意味を読み解くことができる</li> <li>4. スクリーニングの意味を理解し、敏感度、特異度、陽性反応的中度を計算することができる</li> <li>5. 有病率・罹患率・死亡率・年齢調整死亡率の意味を理解して求めることができる</li> <li>6. 相対危険、寄与危険、人口寄与危険、オッズ比の意味を理解し、計算をすることができる</li> <li>7. 人口静態及び人口動態統計、集団の健康状態の把握に必要な指標を読み取り、保健医療福祉問題との関連性が説明できる</li> </ol>
<p>保健医療福祉行政論Ⅰ</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 保健医療福祉分野の行財政施策の基盤となっている基本的考え方を理解した上で、個々の行財政施策について概観することによって、行政職としての責任と施策化の必要性、法的根拠と仕組みを熟知して保健師活動に活かすことができる</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療福祉行政を学ぶ根拠、公衆衛生の定義を理解することができる</li> <li>2. 社会保障制度の仕組みについて説明できる</li> <li>3. 保健医療福祉の新たな課題と発展的解決について考えることができる</li> </ol>
<p>保健医療福祉行政論Ⅱ</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 保健医療福祉行政論Ⅰで、人々の健康を維持させるための保健医療福祉行政を体系的に理解した上で、保健医療福祉分野での看護専門職者の役割を認識することができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健所法から、地域保健法に基づく地域保健体制の変遷を学び、保健所と市町村保健センターのそれぞれの役割を説明することができる</li> <li>2. 地域保健行政と保健師の活動方法を習得することができる</li> <li>3. 市町村の業務と保健所や関係機関との連携による活動を理解し、検討することができる</li> <li>4. 地域単位の保健師活動の方法を習得することができる</li> </ol>
<p>個人・家族・集団・組織の支援実習</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 地域保健活動の対象である個人とその家族、そしてそれを取り巻く地域全体の総合的な健康課題を明らかにし、住み慣れた地域でその人らしく生きることを支援するため個人や地域、地域の持つ特性を生かした援助方法の実際を学ぶ。そして、ヘルスプロモーションに基づき地域で展開されている総合的な支援と学習で得た知識を統合し、地域の健康問題に対して、関係機関や住民と連携を図り協働して保健師活動を展開する能力を養うことができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の健康課題を分析し、健康問題の解決に向けてヘルスプロモーションの視点に立った保健師の活動について説明することができる</li> <li>2. 福祉保健所と市町村保健センターの機能や役割、専門性について学び、保健師活動のあり方や意義について説明することができる</li> <li>3. 地域全体の健康度や地域特性をアセスメントし、地域の健康課題を考えることができる</li> <li>4. 対象理解の方法を学び、個人や家族に応じた看護実践を考えることができる</li> <li>5. カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる</li> </ol>

<p>公衆衛生看護活動展開 論実習</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 保健師には、基礎データから得られる情報等で地域実態把握をしたり、日々の保健活動の中での気づきを活かしたりしながら地域診断を行い、担当する地域の特性を把握し、健康課題を明確化し活動を展開していく能力が求められる。そのため、担当地域の健康課題を明らかにし、その解決に向けて、関係機関との連携や組織化に向けた支援を基盤にしてシステマティックに活動を展開している事例の分析・評価、介入を行い、地域ケアコーディネーションの総合調整機能に関わる保健師の役割を理解し、地域の現場で知識を活用し実践することができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域診断を基に必要な地域ケアシステムを構築する必要性と保健師の役割が説明できる</li> <li>2. 看護の目的にそって地域保健医療福祉システムの中での看護職者の果たす役割について説明することができる</li> <li>3. 母子保健・精神保健・成人保健などの各種事業に参加し、事業の目的や対象とするもの、保健師の役割を学び実践力を養うことができる</li> <li>4. 個々の保健事業を地域全体のヘルスプロモーションの視点に立って説明できる</li> <li>5. カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる</li> </ol>
<p>公衆衛生看護管理論実習</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 地域住民や関係機関と協働して、地域全体の健康レベルの向上及び地域ケアの質を保障するための保健師の役割を実際の活動から学びとることができる。また保健師は保健医療福祉行政の中に位置づけられる専門職者として、地域の健康問題や特性など実情に応じた事業の企画立案や進行管理、予算及び情報に関する各種管理能力などが求められることを理解し、さらに人材育成や災害時などの健康危機管理における保健師の役割や位置づけ、求められる資質を学び、実際の場面での実践方法を検討することができる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住民の健康の保持増進のための一次予防や二次予防、三次予防をねらいとした地域の保健医療福祉システムの中で保健師に求められる役割や管理能力を述べることができる</li> <li>2. 関係機関との協働や連携の必要性を学び、具体的な連携の取り方を地域の個別ケースへの支援や組織支援を通じて実践することができる</li> <li>3. 市町村で運営されている各種保健事業の予算や業務管理などの実際を、企画の段階から説明することができる</li> <li>4. 市町村における人材育成や保健師の管理的能力の獲得の方法について、実際の現場での取り組みを説明することができる</li> <li>5. 行政に位置づけられる専門職者として、守秘義務や個人情報の保護の徹底の必要性を理解し、対象を尊重する気持ちをもって活動に臨む姿勢を身につけることができる</li> <li>6. カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、保健師活動に対する自己洞察を深め、専門職者としての意識と責任を持つことができる</li> </ol>
<p>外国語</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; Students will become more internationalized by acquiring basic/specialized English for nurses by enhancing their logical thinking &amp; use of English expressions in order to read scientific materials &amp; communicate to hospital patients.</p> <p>&lt;到達目標&gt; Students will study medical English vocabulary &amp; expressions for nurses related to various problems by reading various articles from medical journals (Pediatric Nursing/PHN) &amp; speaking (role-playing).</p>
<p>情報科学Ⅲ</p>	<p>&lt;授業の目的&gt; 保健師あるいは養護教諭の業務に必要なデータ処理、エクセルを用いた統計処理・検定ができるようになる。ワードの機能を用いて、エクセルのデータを連動させて案内文書が作成できるようになる。プレゼンテーションの原則をふまえ、パワーポイントによるプレゼンテーションができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; サンプルデータをもとにエクセルを用いた統計処理・検定ができる。ワードの機能を用いて、エクセルのデータを連動させて案内文書が作成できる。プレゼンテーションの原則をふまえ、パワーポイントによるプレゼンテーションができる。</p>

修了研究	<p>&lt;授業の目的&gt; 専門科目の学習成果を受けて設定したテーマを基に看護研究に取り組み、目的に向かう粘り強さ、論理的思考能力、豊かな表現力を身につける。また、倫理的感受性を高め、看護専門職としての責務について考察することにより、看護専門職者としての自己教育力を高める。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 研究テーマに沿った量的・質的に十分な文献を収集して、それらの内容を適切に要約し、自分の意見を持つことができる</li><li>2. 広範な文献検索に基づいて把握した研究背景と、研究目的を明確に記述することができる</li><li>3. 収集した文献の要約から、いくつかの段落に分けて論理的に文献検討の内容を記述することができる</li><li>4. 研究における倫理的配慮について、自分の研究と関連させて考えることができる</li><li>5. 自ら設定した研究目的に基づいて、論文内容の一貫性を保つことができる</li><li>6. 事実と意見を区別し、事実と意見のつながりを明確かつ円滑に記述することができる</li><li>7. 文献を適切に引用し、誤字脱字なく論文の形式を整えることができる</li><li>8. 自らの研究について、発表内容を自分の中に落とし込み、落ち着いた態度で時間内にわかり易く発表することができる</li><li>9. 聞き手とアイコンタクトをとり、聞き手の反応を観ながら、明瞭な言葉を使って、自分の主張を適切に伝えることができる</li><li>10. 研究の全過程を通じて、自ら進んで困難な課題に挑戦し、達成に向けて十分に努力することができる</li><li>11. 修了研究への取り組みを振り返り、自らの成長と新たな課題を見出し、自分の考えを述べることができる</li></ol>
------	---

## ■教職に関する科目

科目名	授業の目的・到達目標
衛生学及び公衆衛生学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 公衆衛生とは、疾病の予防・健康の保持増進を達成するために、地域・職域において保健・医療・福祉活動を総合的に展開する必要がある、対象を集団として集団の動向から健康を捉え、得られた結果・成果を個人に活用する総合学問分野である。幅広い基礎的知識から予防医学の基礎を学習することによって、これらを実際の活動展開の中で活用できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の近・現代史を概観しながら公衆衛生改善の歩みを理解することができる</li> <li>2. 公衆衛生に関する現在の問題点と保健医療従事者の課題について考えることができる</li> <li>3. 現在の公衆衛生システムと政策について理解することができる</li> <li>4. 諸外国の公衆衛生システムと政策について理解することができる</li> <li>5. 生活習慣病の危険因子について説明できる</li> <li>6. 生活環境の健康障害について説明できる</li> <li>7. 感染症の疫学とその予防について説明できる</li> <li>8. 労働者の健康管理について説明できる</li> </ol>
学校保健Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 学校保健の仕組みと役割を理解し、専門職としての養護教諭の活動を理解し積極的に学校保健を推進していくための基礎的知識と実践力を身につけるために行う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校保健の教育現場における領域構造や内容について具体的な実践活動を含め説明することができる。</li> <li>2. 心身の健康や発達・行動上の課題を有する子どもや家族を支援するために必要な知識と技術を習得し、実践に活かすことができる。</li> </ol>
養護概説Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 専門職としての養護教諭の職務について学び、地域社会や学校での健康実態の把握および健康問題の把握を行い、課題解決できる実践力を身につけ、対応できる力を養うために行う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「養護」の本質や概念、職務内容について、法的根拠に基づいて説明することができる。</li> <li>2. 保健室経営の重要性について理解し、保健室経営計画案を作成することができる。</li> <li>3. 児童生徒の健康問題に対して、指導計画を立案し健康教育が実践できる。</li> </ol>
学校教育制度	<p>&lt;授業の目的&gt; 学生が我が国の教育制度の変遷制度について深く学習するとともに、諸外国の教育制度についての理解を深め、また、義務教育制度に関連する課題等についても理解を深めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職を目指す学生が、基本的な学校制度の概念について理解できること。</li> <li>2. 学生が我が国の学校制度の位置づけと役割を、諸外国との比較において理解すること。</li> <li>3. 学生が学校制度を取り巻く社会的環境や地誌的諸条件などを理解するとともに、広く教育を社会制度としてとらえる視点を持てること。</li> </ol>
教育課程の意義と編成	<p>&lt;授業の目的&gt; 教職を目指す学生が、我が国の教育課程の変遷とその制度について学習するとともに、教育課程内容についての理解を深めること。また、諸外国の教育課程改革を理解しつつ、日本の教育課程改革の特徴を理解すること。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が法規（学校教育法、同施行規則）と学習指導要領について理解すること。</li> <li>2. 学生が小学校及び中学校の教育課程の編成方法について理解すること。</li> <li>3. 学生が養護教諭の職務と教育課程との関連について理解すること。</li> </ol>
教育方法論	<p>&lt;授業の目的&gt; 各種教育媒体と教材提示方法の長所と短所を理解することができるようになる。教材の作成を理解し、適切な教材を作成する能力を養う。教育媒体を使用しての実際の授業展開ができる能力・技術を養う。教育方法の多様化に対応する施設、設備についての理解を深める。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 各種教育媒体と教材提示方法の長所と短所を理解することができる。教材の作成を理解し、適切な教材を作成する能力を養うことができる。教育媒体を使用しての実際の授業展開ができる能力・技術を養うことができる。教育方法の多様化に対応する施設、設備についての理解を深めることができる。</p>

生徒・進路指導論	<p>&lt;授業の目的&gt; いじめや不登校（中退）などといった中学校・高等学校における生徒指導の現状、および、それを読み解く理論を理解する。合わせて、ディスカッションや傾聴の実習などを通じて、実践的な対処についてもトレーニングを積み、自信をもって指導にあたることを可能にするような素地を獲得することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小中高等学校における生徒指導の理論と現状について理解できる</li> <li>2. 生徒指導を通じて「生きる力」の醸成方法について理解できる</li> <li>3. 生徒指導と進路指導及びキャリア形成についての理解できる</li> </ol>
養護実習Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 大学で習得した知識・技術を、学校という教育活動の場で体験し、学校教育全般についての理解を深め、学校保健活動の実際について学ぶとともに、養護教諭の職務について理解し、実践力を養うために行う。また、教育者としての自覚を高めるとともに、教職に必要な技術・能力と精神を培う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の特性、組織、運営について理解を深め、説明することができる。</li> <li>2. 教育計画のなかでの学校保健活動の位置づけについて理解し、学校保健計画・学校安全計画についてその意義と実際について説明することができる。</li> <li>3. 養護教諭の役割と具体的活動を理解し、養護教諭の指導のもと保健室来訪者の対応ができる。</li> <li>4. 児童生徒の生活を理解するとともに、発達発育段階に応じた保健教育が実施できる。</li> <li>5. 包括的視点から、家庭・地域・関連機関との連携について理解し、その意義と実際について説明することができる。</li> </ol>